

つくば市大通りににおけるグラフィティ・アートの特徴とその分析 The Analysis of the graffiti plotted along the Main Street in Tsukuba City

池田 真利子 (地球科学専攻)
IKEDA Mariko (Master's Program in Geosciences)

- 1. 目的:** 一般的に、都市におけるグラフィティは「落書き」として総称される傾向にある。しかしグラフィティと落書きは、そこに書き手の何らかの意図が含まれるか否かで異なる。本調査では、小野澤(2007)の考察をもとにグラフィティの分布を再度検証し、その種類やタグ名から分かるグラフィティの具体的な属性をみることにした。
- 2. 対象地域:** 対象地域はつくば市とし、大通り沿いを対象範囲とする。具体的には北限を県道 244 号(北大通り)、南限を国道 354 号とし、県道 244 号(西大通り)、県道 55 号(東大通り)の幹線道路沿いを調査した。
- 3. 手法:** 落書き・グラフィティを見つけた時点で GPS により地点をプロットし、またその特徴(ライター名、描くのに用いられた道具、色、色の数、グラフィティの種類)を記録する。また、それらを地点情報と共に分析する。
- 4. 結果:** 対象地域内の大通り沿いには 203 個のグラフィティ(タグ、スローアップ)が点在していた(図 1)。東大通りよりも西大通りに多く分布しているのが分かる。西大通りではグラフィティが多数消されている跡が確認された。これは行政側の対応策が、西大通りを中心に行われてきたことによると考えられる。このように分布するグラフィティの種類は多くがタグ

(197 個)であり、他はスローアップ (6 個)であった。使用色は黒色(162 個)が最も多く、つづいて緑色(14 個)、赤色(9 個)である。描かれる道具はスプレー(98 個)、マーカー(76 個)、ステッカー(29 個)の順に多かった。A や B(いずれも仮名)は、マーカーを必ず用いるなどライターごとに使用する道具への嗜好がみられる。次いでライター別のグラフィティ(タグ)の分布を示した(図 2)。A は分電盤(公共物)に書く傾向があり、従って広範囲に規則的に分布している。また B は北側に多く描いており、南側の国道 354 号にはない一方で、ISM は主に南側に描いており、北側で描かれているのは天久保 1 丁目の飲み屋街周辺のみである。従って、公共物(公的権力)に描くということ自体に嗜好を有しているため広範囲に活動している者ライター、地域別のテリトリーをもっていると予測される者ライターなど、ライター内でも特徴が分化している。

- 5. 考察:** グラフィティは通行人に「見られること」を意識した産物である。そのため大通りや交差点に多く描かれる。また、ライター側のテリトリー意識が顕在化されたものでもある。そのためタグが 1 つ描かれると、そこがキャンパス化する傾向にある。グラフィティ行為者側の特徴を把握することは重要である。

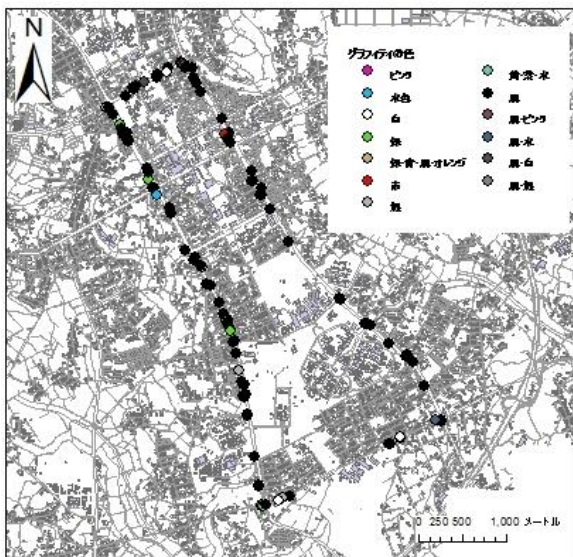


図 1 対象地域におけるグラフィティと色の分布

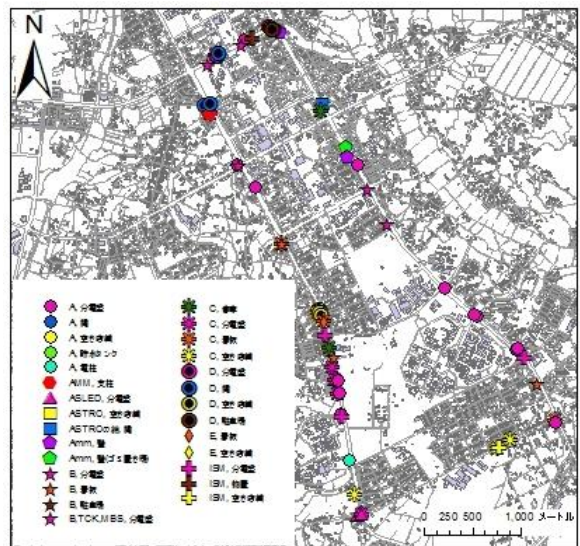


図 2 各ライターの地理的分布と場所の属性